

連続コラム

第1回 土岐津町 本郷の馬具

うちんたあのお宝、なんやね？

今月から、市内8地区にある文化財を月替わりで紹介する新連載が始まります。それって名前はよく聞くけれど、背景にこんな歴史があったの!?とか、うちの地区にはこんなお宝があったの!?など、新たな発見があるかもしれません。どうぞお楽しみに！

第1回は、土岐津町の本郷地区の文化財「本郷の馬具」です。これは祭りでの花馬奉納に使用された馬具で、江戸時代の鞍が土岐市指定文化財になっています。



鞍の上に付ける飾り道具は昭和12年（1937）に制作されたもので、龍と獅子の飾り、二頭一対分の飾り道具一式が良好な形で残されています。

花馬奉納は、かつては美濃焼などの輸送に馬が活躍した東濃地方全域で盛んに行われていました。市内でも戦前は町内ごとに花馬の飾り道具を持ち、祭りの日には各町内が出した花馬が何頭も神社へ集結し、華やかな光景だったそうです。地域から馬が減っていくにつれ、祭りでの花馬の頭数はしだいに減り、昭和30年（1955）頃には奉納はほとんど行われなくなりました。

本郷の花馬も一度途絶えますが、平成10年頃から10年ほど再興されました。現在は、祭りに花馬は出されず、神輿に馬具を飾り付けて奉納されています。



本郷の馬具

本郷町蔵

鞍

土岐市指定文化財
左：制作年不明
右：享保8年（1723）

飾り道具 昭和12年（1937）

土岐市の文化財展『祭りと信仰』2月23日まで開催中。本郷の馬具も展示しています。